

運 営  
— 2005年度 —

# 1. 技 術 部

## (1) クロップिंगシステム部門

平成17年度担当圃場面積は144.8a, 作付面積は春作113.0a (露地102a, ビニールハウス4.8a, 汎用温室6.2a), 秋作71.8a (露地63.5a, ビニールハウス4.1a, 温室4.2a) で総作付面積は184.8a, 作付率は128%であった。

今年度は昨年のような災害(台風)も少なく順調であった。ただ12月は低温と雨量が極端に少なく, 秋作の生育に影響がでたが灌水設備の充実により収量的には問題はなかった。作付計画に沿った学生実習を行うことができ, 栽培も順調で販売収入も平年並みであった。

土壌改良についてはカボチャ間作エンバクの作付, 圃場にエンバクの作付を取り入れた。また八浜農場の協力を得て籾殻の投与も継続して行った。また, 緑道公園の協力を得て冬季に落葉の投入を行い耕起を行った。また落葉とチップと米糠等による堆肥作りを行った。

カンショは, 籾殻と落ち葉を散布して土作りを行った。マルチフィルムの再利用で畦間の雑草対策を行い効果を得た。品種はベニアズマと高系14号を栽培した。ハウスモンヨトウの発生はあったが生産量に大きな影響はなかった。園児等を対象とする芋掘りも好評であった。本畑採苗による栽培試験も継続している。

エダマメ・スイートコーンは, これまでの栽培データから回帰式(播種日ー収穫日)による計画的栽培ができた。今後もこの方式で栽培を行いたい。移植栽培では除草対策に課題を残した。

カボチャは, 発芽・初期生育も良好で平年並みの収量があった。毎年, 後半にウドンコ病が発生するので早めの対策を行いたい。収穫後に腐敗し廃棄したものが多く, 今後貯蔵の仕方を考慮したい。

今年度から「トウガン」の試験栽培を行った。

春作カンランは, 従来の作付では収穫時期が高温になるため腐敗が多くなる。今年も多く廃棄した。4月には収穫を終える作型栽培を考慮したい。秋作カンランは, 早生品種は高温のため虫害の影響が大

きいが晩生品種は安定した収量が得られた。

ブロッコリー・カリフラワーは, 圃場の水はけが悪いため生育不良であった。収穫も半減した。

ハボタンは露地作に加え, ポット作りも行った。葉の枚数はやや少なくなったが, 小ぶりのハボタンができ, 販売も順調であった。来年度は葉の枚数が多くなる方策も見出したい。

春ホウレンソウは, 生育は順調であったが, 収穫時期が遅れると, 苔立ちした。秋の露地作については葉の黄化症状が出て生育が不良となった箇所もあり, こまめに追肥をするなどの対策をした。ハウス栽培では生育良好であった。今後も露地栽培と施設栽培の作型を行いたい。

ネギは, 苗作が良好で, また管理機による中耕培土・除草も順調にできた。安定した栽培管理・収量が可能になった。今年度も収穫時期を早め収穫をおこなった。一部は採種用に残した。

レタスは, 春作の「レッドウエーブ」については苔立ちが多くなり, 秋作の「シスコ」については良質で高収量が可能となり好評で作目として定着したが, 寒さによる腐敗があった。

ニラは, 生育途中で葉先が紫色になり, 品質が低下した。透明のビニールトンネルをしたが, 露地栽培では低温のため生育が遅れ収穫も減少した。ビニールハウスに播種する予定で, 来年度以降はまたビニールハウスで栽培したい。

ニンニクは, 春先までは順調に生育していたが, 4月以降に「ハルグサレ病」らしき病徴が見られ, 半分程度が腐敗し廃棄することとなった。販売は予想以上に好調であった。今後は病気の予防に努めたい。

セルリーは昨年の経験から育苗の高設栽培を行なった。低温になると芯の辺りが変色した。

シュンギクは, 生育旺盛で収穫が遅れ苔立ちの所も一部でたが高収量であった。

ツルムラサキは, 7月から9月の葉菜類が不足する時期に収穫・販売でき, 栽培も容易である。販売

はなかなか好調であった。

サトイモはハウスモンヨトウの被害にあったがイモの収量は平年並みであった。販売も好評であった。

栽培区において親芋を使った種芋の試験調査を行っている（試験研究参照）。

ヤマノイモは、芽出し中に多くが腐敗し、植え付け後の欠株が多く栽培に苦慮している。イモの形状は表面の凹凸の多いものが多かった。土作りに工夫を加えたい。

カブ・ダイコンは、表皮が褐色化し穴があくセンチウ害様の障害が発生し、商品価値が下がったものもあった。

ニンジン販売も好評で安定した作目である。今後の主力作目として拡充を行なう時、マルチ栽培での手作業での穴あけ・播種に課題を残す。

バレイショは管理機による除草・中耕培土の確立、芋ほり機による収穫と機械化により安定した栽培管理・収穫が可能になった。春バレイショは発芽・生育も揃い、安定した収量が得られるようになった。秋バレイショは欠株が出ることで多く課題を残す。今年度の秋バレイショは栽培管理で農薬使用において不手際があり、収穫許容期に数日満たないだけであったが、法令どおり全て廃棄処分とした。販

売前に確認することができ、危機管理上は適切な処置が行えたが、今後の糧としたい。

ハルウコンは栽培にあまり手がかからないが、収穫後の調製作業にやや時間がかかった。また、利用者が限られており、単価は高いが大幅な売り上げ増にはつながらなかった。

この他、アスパラガス・ウド・トウガン・アロエベラ・ドラゴンフルーツを試験的に栽培した。

（山奥隆・酒井富美子）

平成3年から畑作を主体とするクロッピングシステム部門に配置換えになり（山奥）、平成8年から新規採用（酒井）と、部門長のご指導のもと畑作の作付の多様化に取り組んできた。多様化の目標は学生実習教材の多様化に貢献することであり、また労働ピークの解消と農業災害や市場価格におけるリスクを分散する意味からも有意義であると確信している。新作目の導入にあたっては栽培試験を行い、また機械化による省力化、栽培体型の充実を計り、現在の栽培作付において輪作体系の確立を一応することができた。

平成18年度から他部門に配置換えになるが、これまで学んだことを今後にも役立てたい。

（山奥 隆）

## (2) 汎用耕地部門

平成17年度は、5月中旬から6月中旬にかけて晴れの日が続き、ほとんど降雨はなかった。そのため乾田直播栽培は、出芽不良によって生育遅れや生育不足が多く発生した。特に晩生品種のアケボノは著しい出芽不良になった。移植栽培は岡山水田、八浜水田共に苗の生育は順調に進み、田植えも平年並みに行え、活着も比較的順調であった。

6月の気温は高温傾向で推移し、最高気温が平年を大きく上回る記録的な暑さとなった7月の梅雨明け後も高温傾向は続き生育も中生、晩生品種ともにほぼ順調に進んだ。

しかし、穂ばらみ期から出穂期にあたる9月上旬に台風14号が襲来したため、出穂遅れや穂ずれ、上位葉の裂傷等による着色米、登熟不良米等の発生が多くみられた。登熟期は台風の襲来もなくおおむね高温傾向で推移し、成熟期が数日程度早くなった。単収は晩生のアケボノより中生のヒノヒカリの方が若干高い結果となった。水稻の作柄、作況指数は全国平均が532kg/10a「101」、岡山県南部は522kg/10a、

「98」であった。岡山水田は栽培品種をアケボノに統一し、1号水田はガイダンス科目総合農業科学入門で一年次生全員による手植え移植とし、2号水田は田植え機を用いて成苗（葉齢5～5.5）を移植栽培した。また、3号水田では、修士・卒業論文作成のための試験が行われ、多くの研究成果が報告された。八浜水田は1号～5号水田を乾田直播栽培、6号水田に成苗（葉齢5～5.5）を用いた移植栽培とし、中生品種のヒノヒカリと晩生品種の朝日、アケボノを栽培して作業の分散を図った。また、カキ殻の多い場所では秋落ちしやすい傾向がみられたため、水田の一部分に追肥を行った。

本農場の水稻収量は岡山水田527kg/10a、八浜水田アケボノ450kg/10a、ヒノヒカリ484kg/10a、朝日433kg/10a、平均514kg/10aとなり、台風が多く襲来した昨年（470kg/10a）に比べて増収した。また、本年度はヒノヒカリ4,180kg、アケボノ720kgを学内販売した。

(多田正人)

第1表 栽培面積

作目	栽培様式	品種	栽培圃場及び面積(a)	合計(a)
岡山水田	移植	アケボノ	1号(40)	40
		アケボノ	2号(64)	64
		試験研究用	3号(5, 研究室・未収穫)	-
八浜水田	直播	アケボノ	1号(181) 3号(69)	250
	直播	朝日	1号(30)	30
	直播	ヒノヒカリ	2号(158) 4号(81) 5号(134)	373
	移植	アケボノ	1号(70)	70

第2表 栽培の概要

作目	栽培様式	品種	播種・移植期	播種量 kg/10a	施肥量 (kg/10a)				収穫期
					種類	N	P <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	
岡山水田	移植	アケボノ	5/17・6/13～14	1.3	LP	8.4	8.4	8.4	10/20～10/24
八浜水田	直播	アケボノ	5/13～5/16	6.0	LP	8.4-12.2	8.4	8.4	10/28～11/2
	直播	朝日	5/16	6.0	LP	8.4-12.2	8.4	8.4	10/17
	直播	ヒノヒカリ	5/ 9～5/11	9.0	Z140	10.8-18.0	6.6	6.6	10/ 3～10/16
	直播	ヒノヒカリ	〃	9.0	HALP	12.0-18.0	7.2	8.4	〃
	移植	アケボノ	5/17・6/22	1.3	LP	8.4	8.4	8.4	11/2

第3表 水稻防除作業内容

	薬品名	圃場名 (号田)	使用量 (/10a)	月/日
八浜水田				
除草剤	サターン乳剤	1, 2, 3, 4, 5, 6	931ml	5/24~5/26
	スタム乳剤	〃	867ml	5/24~6/9
	ラクダーLフロアブル	2, 4, 5	500cc	6/24
	サンウェル粒剤	1, 3, 6	853g	6/28
	ブローダックス	1	428cc	6/21
	クリンチャー乳剤	1, 2, 3, 4, 5, 6	99cc	6/3
	クリンチャー乳剤	〃	99cc	6/13~6/16
	殺虫・殺菌剤 アドマイヤー粒剤	〃	2.6kg	5/18~6/7
殺虫・殺菌剤	ブラシフフロアブル	〃	45cc	7/19~8/1
	ロムダンゾル	〃	61cc	〃
	モンカットフロアブル	〃	45g	〃
	アブロードフロアブル	〃	55cc	〃
	ブラシフフロアブル	〃	46cc	8/16~8/31
	ロムダンゾル	〃	55cc	〃
	モンカットフロアブル	〃	43g	〃
	アブロードフロアブル	〃	57cc	〃
岡山水田				
除草剤	ラクダーLフロアブル	1, 2	500cc	6/17
	ブローダックス	〃	491cc	6/10
殺虫・殺菌剤	ロムダンゾル	1, 2, 3	61g	7/21
	モンカットフロアブル	〃	45g	〃
	アブロードフロアブル	〃	55g	〃
	ブラシフフロアブル	〃	45cc	〃
	ロムダンゾル	〃	55cc	8/24
	モンカットフロアブル	〃	43g	〃
	アブロードフロアブル	〃	57cc	〃
	ブラシフフロアブル	〃	46cc	〃

## (3) 装置化生産部門

### i. 果樹部

平成17年度の担当圃場面積は、岡山農場149.5a（露地103.1a，雨よけハウス39.9a，ガラス室6.5a）および本島農場49a（すべて露地）の合計198.5aであった。

今年度は春に雨が少なく，岡山市における4月から6月までの3ヶ月間の降水量は106mmで平年の3分の1以下であった。また，冬は近年になく気温の低い日が多かった。

9月6日には台風14号が来襲し，岡山市では最大瞬間風速37.4mを記録した。前年度の台風で骨組みが浮き上がったハウスでフィルムを取り外すなど，事前の対策を行ったが，フィルムを残した10棟のハウスのうち8棟でフィルムが破れるなど，2年連続で台風被害を蒙った。

4月末には昨年度の台風で倒壊した2号園西側のハウスを再建した。このハウスは7連棟の雨よけハウスで，4棟でリンゴを，3棟でカンキツ類を栽培する予定である。

新しく苗木を定植する予定地（3号園および本島農場を除く）と培土には，白紋羽病の予防のため土壌消毒を行い，リンゴの定植予定地にはクロルピクリン，その他の果樹の定植予定地にはカーバム剤を用いた。

岡山農場の生産実績を第1表に，本島農場の生産実績を第2表に示した。リンゴの収穫がなくなったこととカキが不作であったことから，岡山農場の販売収入は前年度に比べて約15%程度減少した。本島農場の販売収入は前年度並であった。

#### ① モモ

4号園では‘清水白桃’と‘ゴールデンピーチ’を中心に開花後の4月末から5月に主枝や側枝が大きく枯れこむ樹が複数見られた。このような樹は樹勢が弱かったため，5月に追肥を行った。収穫期の遅い‘ゴールデンピーチ’は収穫直前に鳥害（主にカラス）を受け，多くの果実が落下した。

生産量は，‘あかつき’と‘紅清水’では前年度より2割程度多かったが，‘清水白桃’と‘ゴール

デンピーチ’では前年度よりも少なかった。特に，進物用の主力品種である‘清水白桃’は前年度の半分程度の生産量で，良品の割合も低かった。このため，‘清水白桃’の箱詰め数は30箱程度と少なかった。

各品種とも果実の糖度はBrix値10～13で，果実ごとのばらつきは小さかった。大きさの揃いもよく，‘あかつき’と‘紅清水’では300g前後の果実が多かった。果実は香りがよく，渋味や苦味が少なく，食味は良かった。

4号園では，10月に‘紅清水’の生育不良樹1本を伐採し，12月にはスモモ，ブルーネおよびアンズを2号園の西端に移植した。これらの跡地に，12月に‘日川白鳳’2本，‘川中島白桃’1本，‘清水白桃’1本および‘黄貴姫’1本を植え付けた。

1975年定植で衰弱が進んだ1号園の‘清水白桃’9本のうち4本を10月に伐採した。

#### ② ブドウ

##### 【雨よけハウス】

今年度は新梢の先端を棚下に下げた管理を行った。6月下旬以降はスピードスプレーヤーの走行が困難となり，薬剤散布は手で行ったが，新梢の伸びが落ちていたため新梢管理にかかる時間が減少し，全体としては省力になった。

害虫の発生が目立ち，‘ピオーネ’，‘マスカット・ベリーA’および‘ヒロハンプルグ’ではコナカイガラムシの発生が多く，園の中央部および東側では8月にハダニの発生が著しかった。袋かけ前には園全体でモモノゴマダラノメイガによる果実への食害が目立った。

数年前から‘アーリー・スチューベン’を中心に成熟果の房の内部に白色のカビが生じる病害（白綿病）の発生が散発的に見られたが，今年度は被害果の割合が増え，さらに他の品種にも被害が広がった。

‘藤稔’は今年度も100万円弱の販売収入があり，高い収益性を維持した。‘ピオーネ’は着色不良の傾向が続いた。‘マスカット・ベリーA’は着果量が多かったため成熟不良のものが多く，減収にな

った。

‘巨峰’は1回目のジベレリン処理時にフルメット5ppmを混用したため花振るいが少なかった。房の形が良く、食味もまずまずであったが、着色不良のため販売所では不評であった。このため、低価格で販売したが、収穫が終了したのは12月上旬であった。

‘アーリー・スチューベン’は着果量が多く増収になった。房は350g程度で外観が良かったが、Brix値は16程度で例年よりも低かった。

‘デラウェア’は1回目のジベレリン処理適期が連休と重なったため、有核果が混入した。今年度も樹勢が弱かったが、果実のBrix値は22～26と高かった。

3月に更新用の苗木として‘オーロラブラック’3本と‘安芸クイーン’1本を定植した。

### 【ガラス室】

大温室と室内温度コントロール室は無加温で、地中温度コントロール室は2月加温で栽培した。‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’は、大温室ではハマキムシやホソヘリカメムシの発生が多かったが、例年よりも果実の外観と食味が良かった。地中温度コントロール室で生産された果実は食味が良かった。‘グローコールマン’は秋にハダニの発生が多かった。

室内温度コントロール室では‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’の成木1本が9月に枯死した。根に白色の菌糸が多数付着しているのが認められたため、白紋羽病が原因であると考えられた。土壌消毒後12月に新しい苗を補植したが、根域制限の鉢と白紋羽病菌で汚染された土壌とを完全に遮断するため、波スレート板を敷いた上に鉢を置き、そこに苗木を植え付けた。

‘グローコールマン’は12月末までに完売しなかったため、12月末にすべて収穫して冷蔵庫で保存し、1月にも販売した。

### ③ カキ

前年度不作であった‘平核無’は前年度の3倍以上の生産量であったが、それ以外の品種では前年度よりも生産量が少なかった。特に‘西条’は前年度

の5分の1の生産量と著しい不作で、‘松本早生富有’および‘愛宕’も前年度の半分以下の生産量であった。生産量が少なかったため、収穫・脱渋後に軟化して廃棄する果実はほとんどなかったが、‘愛宕’では干し柿に加工する果実をわずかししか確保できなかった。

‘平核無’は例年よりも食味が良く、販売所では好評であった。少雨のため、‘西条’では葉の萎凋や果頂部の軟化が認められた。

### ④ キウイフルーツ

前年度の台風により落葉が著しかった園南側の5樹（雄株を除く）ではほとんど花が着かず、このため果実もほとんど着かなかった。また、9月の台風14号による強風で多くの葉がちぎれたため、落葉の著しかった箇所では再度摘果を行った。このため、生産量は前年度の約半分であった。

台風被害に加えて春の少雨の影響もあり、園南西端の‘香緑’1本は、枯死寸前にまで樹勢が低下した。

前年度まで実習棟内で追熟処理を行っていたが、今年度は低温で追熟が進まず、途中から15℃に設定した部屋の中で処理した。果実は2月末まで販売したが、2月に入る頃には冷蔵庫で保存していた追熟前果実の傷みが激しくなった。

### ⑤ リンゴおよびカンキツ類（岡山農場）

2号園に定植予定の苗を1号園内の苗床で養成した。

リンゴの苗は、白紋羽病やカミキリムシの被害を受けたものが数本あったが、おおむね順調に生育した。12月の落葉後に掘り上げたところ、矮性台木（M9など）部分からの発根が認められたので、すべての苗をマルバ台部分を切除したのち2号園に定植した。品種ごとの定植本数は、‘つがる’18本、‘ふじ’18本、‘印度’2本、‘ゴールドデンリシャス’2本、‘スターキングデンリシャス’2本、‘国光’2本、‘千秋’1本および‘紅玉’1本の合計46本であった。

ウンシュウミカンの‘興津早生’と‘いしじ’の苗木の成長は緩慢であった。冬季に保温のため不織布で2重に被覆したが、低温のため葉が黄変したり

落葉したりする苗が多かった。3月に‘興津早生’および‘いしじ’各9本を2号園に定植し、それ以外の苗木は本島農場に定植した。

極早生ウンシュウミカンの‘宮本早生’および‘上野早生’各2本を3月に購入し、直接2号園に定植した。2号園のカンキツ類定植予定地の一部を研究室のブドウ試験圃場に提供したため、3月に届いたレモン‘リスボン’9本と‘宮本早生’および‘上野早生’各1本は1号園に定植し、植付けまで養成することにした。

#### ⑥ 見本園

ウメは害虫の発生が少なく、良品が生産できた。スモモは裏年のためほとんど花が着かなかった。ビワは数年間無剪定で大木化していたため、3月に樹の中心部から大きく伸びた枝を切除した。見本園は公道に面しているため今年度も薬剤散布がほとんどできず、害虫の発生が目立った。

#### ⑦ カンキツ類（本島農場）

ウンシュウミカンは前年度の1.7倍の生産量であった。8月に農場体験実習で摘果を行ったため、商品価値が低い直径55mm未満のSSサイズの果実は少なかった。

甘夏は前年度の6割以下の生産量で、着果数が少なく、大玉が多かった。イヨカンは前年度の4分の1以下の生産量で、果実の外観が良くなかった。ハッサクは前年度の2.7倍の生産量であったが、風で落下した果実が多かった。前年度まで著しい鳥害のため収穫皆無に近い状態であったセミノールは、例年よりも鳥害が少なく、200kgが収穫できた。

枯死や倒伏のため欠株となっていた場所に、3月に苗木を補植した。補植した苗木の本数は、‘興津早生’18本、‘いしじ’9本、‘宮内伊予柑’8本およびレモン‘リスボン’9本の合計44本であった。

(近藤毅典・永田恵美)

第1表 平成17年度岡山農場果樹類生産量

種 類	品 種	面積 (a)	生産量 (kg)
モモ	あかつき	4.0	598( 113)
	紅清水	8.4	588( 1)
	清水白桃	9.0	310( - 168)
	ゴールデンピーチ	4.0	266( - 99)
ブドウ	藤稔	6.7	1,287( 66)
	ピオーネ	6.2	832( 279)
	巨峰	4.3	793( 149)
	マスカット・ベリーA	5.8	1,166( - 193)
	アーリー・スチューベン	1.9	428( 176)
	デラウェア	1.9	39( 10)
	ヒロハンプルグ	1.4	311( 44)
	ネオ・マスカット	1.0	243( 67)
	マスカット・オブ・アレキサンドリア	4.9	660( 89)
	グロー・コールマン	0.8	282( - 21)
カキ	富有	5.7	420( - 85)
	松本早生富有	3.0	126( - 157)
	平核無	4.2	316( 230)
	西条	3.0	135( - 516)
	愛宕(生果)	6.2	774( - 714)
	愛宕(乾果)		11( - 166)
キウイフルーツ		7.4	247( - 343)
ウメ		4.2	106( - 16)
ビワ		3.1	117( 63)
スモモ		1.7	5( - 144)

\*( )内は前年比

第2表 平成17年度本島農場柑橘類生産量

種類	生産量 (kg)
ウンシュウミカン	4,257( 1,852)
甘夏	2,630( - 1,979)
イヨカン	209( - 743)
ハッサク	504( - 319)
セミノール	200( - )
その他	676( - )

\*( )内は前年比



## ii. 野菜・花き部

平成17年度の気温は平年より高く推移した。特に3～4月の気温は、平年に比べ高めに推移し暖かかった。降水量は平年よりかなり少なく、特に梅雨期の降水量が少なかった。しかし、7月初めはやや多い降水があった。9月6日に台風14号が襲来し、ナスの果実が擦れるなどの被害があった。12月は寒気が入り強い冬型の気候で推移した。野菜および花きの耕種・生産の概要をそれぞれ第1表と第2表に示した。

### 1. 果菜類

スイカは昨年と同じく‘天竜’を栽培した。学生実習で4月19日に定植を行い、5月24日に整枝を行い、生育は順調であった。収穫は7月12日から始め、7月19日に学生実習でも行い8月9日終了した。収穫量は1.2トンで予定収量はほぼ確保できた。

トマト養液栽培の春作は、1月11日と1月18日に播種を行い、1月27日と2月1日に鉢上げを行った。3月1日～3月2日にポットを給液装置に設置して養液栽培を開始した。3月15日頃から開花し、3月18日にトマトトーンによるホルモン処理を行った。前年の給液装置不具合は改修し、生育も順調で、5月18日から収穫を始めて7月13日に終了した。春作生産量は1.4トン（69万円）であった。

トマト秋作では、播種を7月19日と7月28日に行い、7月26日と8月5日に鉢上げをした。8月5日と8月9日にポットを置いて養液栽培を開始した。果実の肥大が不良で裂果も多かった。10月17日から収穫を始め、1月31日に終了した。秋作生産量は0.7トン（34万円）を確保した。トマトの年間生産量は2.1トンで生産額は念願の100万円に到達することができた。

イチゴ栽培では前年の台風23号により倒壊したビニールハウスの廃材パイプを活用してガラス温室（180m<sup>2</sup>）において高設栽培の新設に取り組んだ。パイプを利用して基本フレーム（幅70cm、高さ110cm）を作成し、これを直管パイプで連結し、2槽式のベッド（双子ゆりかご方式）を設置した。5月12日に親株からランナー受けを行い、6月1日にプランターに定植した。8月上旬から再びその株よりのラン

ナー受けを行い、育苗した。定植は9月20日に学生実習で行なった。定植後の生育は順調であったが、灌水ムラによるチップバーンが発生しその後の生育が遅れた。（その後灌水方式は改善）受粉のため、11月10日にミツバチを導入した。薬剤散布を行っていたが、ハダニが12月下旬から発生した。チップバーンやハダニの影響により生育が遅れ、収量が減少した。前年度栽植分の生産量（4～5月）は79kgで高設栽培による生産量（12～3月）は136kg（21万円）となった。

ナスは、3月8日に播種を行い、4月19日に学生実習で定植した。台風14号の影響により果実が擦れる等の被害があった。収穫は6月17日から行い、11月4日に終了した。

ソラマメは、10月25日に播種し、順調に生育した。5月13日より収穫を行い5月30日に終了した。収量は大幅に増収した。

### 2. 葉菜類

ハクサイは、前年と同じく‘無双’と晩成品種‘冬峠’を栽培した。直播栽培で1回目の播種を9月2日、2回目を9月14日に行った。1回目に播種したハクサイは、収穫前にヨトウムシが発生し、食害にあった。収穫は11月4日から行い、2月21日で終了した。収量は予定量を確保できた。

タマネギは、9月21日に播種し、発芽揃いは良かったが、雑草除去に多労を要した。定植は10月31日に学生実習で行い、その後の生育は順調であった。例年発生するべと病も薬剤散布による予防により発生しなかった。抽台が少し見られたが、雑草管理も早めに行った結果、玉の肥大も良好であった。収穫は4月15日に早生種から行い、5月24日の学生実習で終了した。

### 3. 花き

電照ギクは、‘セイスナップ’・‘ローズ舞風車’を導入し、‘黄金’の3品種を栽培した。さし芽を7月26日に行い、8月9日に学生実習により定植した。その後の生育は順調であった。8月12日から電照を開始し、10月17日に終了した。‘セイスナップ’は‘ローズ舞風車’と比べて生育が旺盛であった。収穫は12月1日から徐々に行い、12月14日に終了し

た。

露地ギクの生育は順調であった。ネットを早目にあげることにより、台風による倒伏などを抑えることができ、大きな被害はなかった。

前年、キクを栽培している通路、及び、農道に剪定くずのチップを敷く事により、除草効果があった。

カーネーションは、定植を6月22日に行った。品種は‘リセエンヌ’、‘イルミネーション’、‘カリディ’であった。‘カリディ’は、前年と同じく花卉

に白い斑点が入り品質が劣った。例年発生するハダニも薬剤散布による予防でほとんど発生しなかった。

スターチスをこれまで栽培していたが、今年は、‘ブルーファンタジア’を9月8日に定植した。

平成18年度からクロッピングシステム部門に配置換えになるが、これまで体験できた施設栽培や施設育苗を畑作に生かしてゆきたい。

(山本 昭)

第1表 平成17年度野菜耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
果菜類				
トマト	桃太郎ファイト	汎用温室B	440.0(m <sup>2</sup> )	2,055.9(kg)
ナス	筑陽	南1号	2.0(a)	625.9(kg)
スイカ	天竜	南1号	7.5(a)	1,161.1(kg)
キンウリ	金太郎	南1号	3.0(a)	239.1(kg)
ソラマメ	打越一寸	南2号	2.0(a)	188.0(kg)
イチゴ	とちおとめ	ガラス温室	181.0(m <sup>2</sup> )	214.8(kg)
キュウリ	夏すずみ	南1号	1.0(a)	144.3(kg)
ピーマン	ワンダーベル	南1号	1.0(a)	71.7(kg)
葉菜類				
ハクサイ	無双・冬峠	南2号	8.0(a)	1,542.5(kg)
コマツナ	楽天	南2号	1.0(a)	122.3(kg)
コマツナ	楽天	ハウス	750.0(m <sup>2</sup> )	63.0(kg)
白タマネギ	ターボ・ネオアース・他	南2号	4.5(a)	1,522.0(kg)
赤タマネギ	猩々赤	南2号	1.5(a)	285.6(kg)
タマネギ苗	ターボ・ネオアース	南2号	2.0(a)	5,260.0(本)

第2表 平成17年度花き耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
露地ギク	雪小路・他	南2号	5.0(a)	5,778(本)
電照ギク	心・他	ハウス	250.0(m <sup>2</sup> )	2,668(本)
カーネーション	リセエンヌ・他	汎用温室C	70.0(m <sup>2</sup> )	1,544(本)
スターチス	ブル・シンフォニ・他	汎用温室C	70.0(m <sup>2</sup> )	1,085(本)

## (4) 山地畜産部門

### 〈和牛〉

平成17年度の飼育牛移動状況を第1表に示した。子牛生産頭数は、雌が14頭、雄が19頭の計33頭であった。本年の繁殖牛の事故は、死産が3件あった。

本年の販売総数は33頭で、そのうち子牛が27頭、肥育牛が6頭であった。

繁殖成績を第2表に示した。人工授精で34頭、受精卵移植で3頭受胎させることができた。人工授精では、昨年と同じくらいの高い受胎率を得ることができた。受胎の時期が片寄り傾向は、依然として改善できなかった。受精卵移植は、高育種価牛の卵を4頭に移植し3頭受胎した。

子牛の販売成績を第3表に示した。出荷頭数は去勢19頭、雌8頭の合計27頭であった。出荷日齢は前年と比較して、去勢で2日、雌で12日長くなった。出荷体重は前年と比較して、去勢では3kg減り、雌

では6kgほど増えた。日齢体重は去勢、雌とも少しではあるが悪くなり、発育も、若干ではあるが悪くなっていた。価格は前年より去勢は高値で、雌は安値であった。本年はコクシジウム症の下痢の発生はみられず、ウイルス性の下痢がみられたので、本年度より親牛に牛下痢5種混合不活化ワクチンの接種を始めた。これまでの予防プログラムと新たなプログラムで、今後とも、下痢の発生を抑え、下痢が発生した場合には早期発見・早期治療に努めたい。

枝肉販売成績を第4表に示した。去勢牛を4頭出荷し枝肉格付は、A-3が3頭、A-2が1頭であった。去勢牛のW144号が、出荷前に左後肢を痛めたため別飼いをしたもの、改善されないまま出荷したが、よい成績を得られなかった。今後とも牛の観察に努めて、健康な牛を育てたい。

(野久保隆)

第1表 平成17年度飼育移動状況

			雌				雄			合 計
			子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛	
期 間 移 動	17.04.01現在		12	3	36	2	13	0	4	70
	増	生産	9	－	－	－	13	－	－	22
		振替	－	2	3	－	－	4	－	8
	減	振替	2	3	－	－	4	－	－	8
		へい死	－	－	－	－	－	－	－	0
		売却	6	－	－	2	6	－	－	14
17.10.01現在		13	2	39	0	16	4	4	78	
期 間 移 動	増	生産	5	－	－	－	6	－	－	11
		振替	－	2	2	1	－	－	4	9
	減	振替	2	2	1	－	－	4	－	10
		へい死	－	－	－	－	－	－	－	1
		売却	2	－	－	－	13	－	3	17
18.03.31現在		14	2	40	1	9	0	4	70	

第2表 平成17年人工授精・受精卵移植成績 (17.1.1～17.12.31)

	実施 頭数	受胎 頭数	受胎率 (%)	授精回数							
				1		2		3		4以上	
				受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎
人工授精	38	34	89.4	20	4	7	—	5	—	2	—
受精卵移植	4	3	75.0	3	1	—	—	—	—	—	—

第3表 平成17年度子牛販売成績

販 売 年 月 日	耳 標 番 号	生年月日	性 別	生 後 日 齢 (日)	体 重 (kg)	日 齢 体 重 (kg/日)	落 札 価 格 (千円)	kg当り 単 価 (円/kg)	母 牛 番 号	父 牛 名 号
17. 4.22	R857	16. 6.22	雌	304	227	0.747	307	1,352	Y219	利花
	R863	16. 7.12	雌	284	283	0.996	444	1,569	Y199	利花
	R864	16. 7.21	雌	275	263	0.956	401	1,525	Y185	勝福茂
	R869	16. 8. 7	去	258	260	1.008	372	1,431	Y191	照藤
	R870	16. 8.12	雌	253	252	0.986	503	1,996	Y192	花茂勝 2
	R872	16. 8.23	去	242	252	1.041	468	1,857	Y196	花茂勝 2
	R873	16. 8.26	去	239	252	1.054	495	1,964	Y194	貴安福
17. 6.17	R871	16. 8.17	去	304	270	0.888	338	1,252	Y227	利花
	R874	16. 8.28	雌	293	290	0.990	322	1,110	Y223	勝福茂
	R875	16.10.28	去	232	273	1.177	379	1,388	Y179	利花
17. 8.26	R876	16.11.17	雌	282	236	0.837	381	1,614	Y220	花茂勝 2
	R877	17. 1.10	雌	228	242	1.061	397	1,640	Y221	勝福茂
17.10.14	R878	17. 1.26	去	261	233	0.837	311	1,335	Y228	貴安福
17.11.18	R879	17. 2.19	去	272	279	1.026	494	1,771	Y222	沢茂勝
	R883	17. 3.20	去	243	234	0.963	377	1,611	Y212	勝福茂
16.12.16	R881	17. 3.16	雌	275	266	0.967	501	1,883	Y217	勝福茂
	R882	17. 3.20	雌	271	274	1.011	525	1,916	Y208	福重波
	R885	17. 4.11	去	249	281	1.129	520	1,851	Y211	勝福茂
	R890	17. 5. 9	雌	221	276	1.249	532	1,928	Y200	沢茂勝
18. 1.20	R888	17. 4.27	雌	268	281	1.049	510	1,815	Y187	北国4の3
	R889	17. 4.27	去	268	270	1.007	468	1,733	Y215	美桜
	R891	17. 5.16	去	249	255	1.024	491	1,925	Y210	藤姫丸
	R892	17. 5.16	去	249	301	1.209	547	1,817	Y204	鶴長
	R894	17. 6. 6	去	228	262	1.149	527	2,011	Y209	沢茂勝
18. 2.17	R893	17. 6. 2	去	260	245	0.942	448	1,829	Y224	花茂勝 2
	R896	17. 6.17	去	245	250	1.020	468	1,872	Y203	貴安福
	R898	17. 6.29	去	233	260	1.116	497	1,912	Y214	勝福茂
平均		全頭	27	259	261	1.012	445	1,701		
		去勢	19	254	265	1.047	484	1,822		
		雌	8	271	252	0.932	353	1,399		

第4表 平成17年度枝肉販売成績

と 殺 年月日	耳 標 番 号	性 別	水 引 枝 肉 重 量 (kg)	枝 肉 規 格	枝 肉 単 価 (円/kg)	売 金 (円)	上 額
17. 5.11	Y185	雌	353.7	C-1	300	114,873	
17. 7.21	Y195	雌	460.6	B-1	700	341,319	
17.11.18	W144	去	394.4	B-2	800	326,135	
	W145	去	421.8	A-3	1,880	801,712	
17.11.25	W146	去	372.4	A-3	1,820	712,294	
	W147	去	490.4	A-3	1,855	919,562	

## 〈飼料作物〉

平成17年度における飼料作物の生産状況を第1表に示した。

採草地における飼料作物の青草換算による収量は310,350gであり、10a当たり平均収量は6,257kgであった。採草地と放牧草地との収量を合わせた総収量は462,910kgとなった。利用形態別による収量割合は青刈りで28.3%，乾草で8.1%，サイレージで30.6%，放牧で33.0%となった。

乾草調製用の材料草としてE号草地からイタリアンライグラス、スーダングラス、K3号草地からスーダングラス、A、K1号草地からイタリアンライグラス、K2号草地からエンバクを収穫した。本年の乾草収量は平成16年度に比べ、生草換算で9,075kgの減収となった。今年度A、K1号において播種時期が、適切な時期より少しずれ込んだ影響により、イタリアンライグラスの収量が思うほど上がらなかった。夏作のスーダングラスでは雑草の侵入と、1番草収穫時のダメージなどもあり、あまり収量はのびなかった。また、K2号草地ではエンバクを作付けしたが、作付け時に播種できない所もあり、発芽も悪く収量もおもわしくなかった。

サイレージ調製用の材料として、A、K1号草地からトウモロコシ、D2号草地からトウモロコシ、ソルゴー混播、K2号草地からソルゴーを収穫した。今年度のサイレージ調製収量（生草換算）は141,675kgと、ここ数年では一番の収量となった。今年度はイノシシによる食害のみられなかったことが一番の要因であり、播種から収穫までの技術はある程度確立したように思う。イノシシが来なかったことで、電気牧柵の設置や撤去の時間もいらなかった。今後もイノシシが来ないことを祈りたいものである。

トウモロコシ単独の作付け地における雑草のイチビを生育処理できる薬剤があることを聞き、イチビ発生地に処理を行ったところ効果が認められた。この薬剤を今後の粗飼料生産技術に組み入れて、少しでも多くの収穫が得られるように努力したい。

放牧草地ではオナモミ、ワルナスビ、イグサ、セイタカアワダチソウなどの雑草がみられ、今年も学生実習等で除草作業を行った。今年度は特にワルナスビの繁殖が著しく、一部除草剤散布を行った。効果はみられたが広範な範囲に繁殖しているため、今後も除草作業を行う予定である。

(野久保隆・川畑昭洋)

第1表 平成17年 津高牧場飼料作物生産量

草地	面積 (a)	作物	利用形態別収量 (kg)				放牧 延頭数	生草換算 収量 (kg)	草地当り収量 (kg)	
			青刈	乾草	サイレージ	放牧			生草合計 収量	10a 当り 平均収量
A	100	イタリアンライグラス	8,860	1,140				14,560	52,390	5,239
		トウモロコシ	6,030		15,900			37,830		
D2	130	トウモロコシ+ソルゴー	13,630		34,850			65,905	105,025	8,079
		ソルゴー	39,120					39,120		
E	76	イタリアンライグラス	3,920	1,300				10,420	37,660	4,955
		スーダングラス	12,160	820				16,260		
		イタリアンライグラス+エンバク	10,980					10,980		
K1	90	イタリアンライグラス	3,660	1,795				12,635	42,505	4,723
		トウモロコシ	5,810		12,030			29,870		
K2	60	エンバク	3,200	940				7,900	47,800	7,967
		ソルゴー	6,360		16,770			39,900		
K3	40	イタリアンライグラス	7,170					7,170	24,970	6,243
		スーダングラス	10,300	1,500				17,800		
計	496		131,200	7,495	79,550			310,350	310,350	6,257
B	65	混播牧草				16,120	403	16,120	16,120	2,480
C	120	混播牧草				32,240	806	32,240	32,240	2,687
D1	20	混播牧草				2,920	73	2,920	2,920	1,460
F	104	混播牧草				26,480	662	26,480	26,480	2,546
G	112	混播牧草				26,080	652	26,080	26,080	2,329
H	47	混播牧草				8,240	206	8,240	8,240	1,753
I	185	混播牧草				40,480	1,012	40,480	40,480	2,188
計	653					152,560	3,814	152,560	152,560	2,336
合計	1149		131,200	7,495	79,550	152,560	3,814	462,910	462,910	4,029

利用形態別における生草換算収量

青刈	乾草	サイレージ	放牧	合計
131,200	37,475	141,675	152,560	462,910

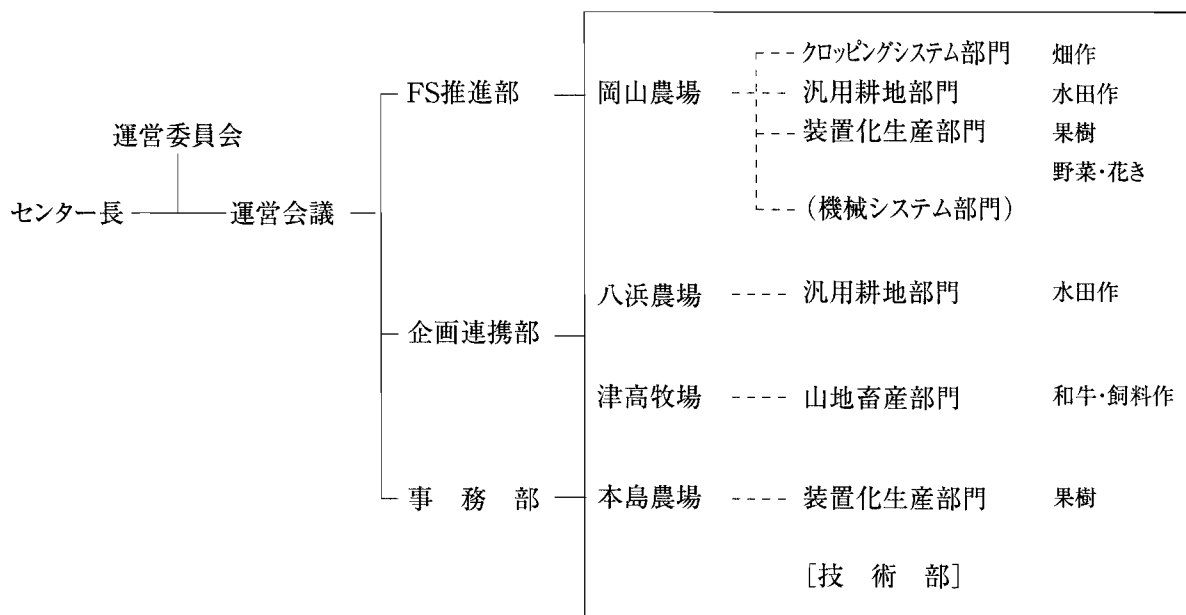
\* サイレージの生草換算はトウモロコシ+ソルゴー×1.5  
トウモロコシ×2, ソルゴー×2

\* 乾草の生草換算は×5

## 2. 事 務 部

### (1) 組 織

#### 1) 機 構



#### 2) 教職員数

区 分	教育職員(一)	一般職員(一)	計	非常勤職員	合計	備考
		技術・事務職員				
センター長	1		1		1	併任
主 事	1		1		1	教授
助 教 授	2		2		2	
助 手	1		1		1	
班 長		1	1		1	
主 任		3	3		3	
技 術 職 員		4	4		4	
事 務 長		1	1		1	併任
係 長		1	1		1	
事 務 職 員		1	1		1	
計	5	11	16		16	
事務補佐員				2	2	
技能補佐員				4	4	
技術補佐員				3	3	
臨時用務員				1	1	
合 計	5	11	16	10	26	

### 3) 技術部部門別職員数

部 門	技術職員	非常勤職員	合 計	備 考
クロッピングシステム	2	1	3	
汎用耕地	1	1	2	
装置化生産				
果樹	2	3	5	
野菜・花き	1	1	2	
山地畜産	2	1	3	
合 計	8	7	15	

## (2) 予算及び収入

### 1) 予 算 (振替, 事項指定等特殊な予算は除く)

平成17年度	
事 項	金 額 (円)
センター経費	39,794,390
(内訳) 作付積算分	17,056,237
収入実績分	22,738,153
自動車維持費	339,500
清掃費	261,300
警備委託費	563,610
和牛飼育業務委託費	890,000
污水处理施設運営費	246,990
消防施設費	12,390
普通庁費	135,420
合 計	42,243,600

### 2) 収 入

平成17年度					(円)
区 分	クロッピングシステム	汎用耕地	装置化生産	山地畜産	合 計
果 菜 類	851,166		1,905,996		2,757,162
葉 菜 類	1,691,881		498,630		2,190,511
根 菜 類	1,042,009				1,042,009
花 卉 類	74,300		898,540		972,840
甘 しょ 類	787,770				787,770
果 樹			6,598,606		6,598,606
米		9,938,480			9,938,480
牛				15,384,938	15,384,938
合 計	4,447,126	9,938,480	9,901,772	15,384,938	39,672,316



### (3) 土地，建物面積

#### 1) 土 地

農場等名	面 積 (㎡)	所 在 地
岡山農場	91,992	岡山市津島桑の木町 1 - 62
八浜農場	89,568	玉野市八浜大崎1771
本島農場	22,161	香川県丸亀市本島町泊
津高牧場	312,484	岡山市日応寺
合 計	516,205	

### (4) 営繕工事

#### 1) 営繕工事（1 件50万円以上）

平成17年度		
工 事 名	数 量 (式)	金 額 (円)
津高牧場尿散布用ポンプ修理	1	999,000

### (5) 会議開催状況

#### 1) 運営委員会

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
17. 6.24	1. フィールド科学センターの組織と運営について 2. フィールド科学センター運営委員会の在り方について 3. 生産物の販売について	1. 平成 17 年度全国大学附属農場協議会春季全国協議会について 2. 平成 17 年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 3. 平成 17 年度「大学等開放推進事業」の実施について 4. 部門別年度別収入状況について
18. 3. 7	1. 平成18年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター併任教員について 2. 平成18年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター専任教員のコースへの併任について 3. 平成18年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会委員について 4. 平成18年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営会議委員について	

## 2) 運営会議

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
17. 4. 6	1. 平成17年度全国大学附属農場協議会春季全国協議会について	1. 平成16年度第3回農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会について 2. 平成17年度大学等開放推進事業について 3. 部門別・年度別収入状況について 4. 平成16年度末備品類整備状況について 5. 平成17年度ワーキンググループ一覧について 6. 技術部会議等について 7. 平成17年度センター実習実施要項について
17. 5.11	1. 平成17年度中国・四国地域 大学附属農場協議会について 2. 全国大学フィールド科学センターネットワークについて	1. 平成17年度センター実習について 2. 平成17年度大学等開放推進事業について 3. フィールド体験教室－親子で野菜づくり－について 4. フィールド科学センター作目コードWG報告について 5. フィールド科学センター販売所利用について 6. フィールド科学センター利用申込状況について 7. 技術部会議等について
17. 6. 1	1. 全国大学フィールド科学センターネットワークについて 2. センター報告第27号について	1. 平成17年度全国大学附属農場協議会春季全国協議会について 2. 平成17年度大学等開放推進事業について 3. フィールド科学センター利用申込状況について 4. 技術部会議等について
17. 7. 6	1. 平成16年度センター等経費決算及び平成17年度予算配分（案）について 2. 生産物の販売について	1. 平成17年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会について 2. 夏季集中実習について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
17. 8.31	1. 平成17年度センター専任教員の講座への併任について	3. 平成17年度大学等開放推進事業について 4. フィールド科学センター利用申込状況について 5. 技術部会議等について 6. センター報告第27号について 1. 平成17年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会委員名簿について 2. 平成17年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営会議委員名簿について 3. 平成17年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 4. 夏期集中実習について 5. 平成17年度大学等開放推進事業について 6. フィールド科学センター利用申込状況について 7. 技術部会議等について 8. センター報告第27号について
17.10. 5	1. 平成18年以降の作付けについて 2. センター報告第27号について	9. 生産物の販売について 1. 農家体験実習、牧場実習、作物集中実習について 2. 平成17年度後期実習開始について 3. 津高牧場畜魂祭について 4. 農学部公開シンポジウムについて 5. フィールド科学センター利用申込状況について 6. 技術部会議等について
17.11. 2	1. 津高牧場環境改善対策について 2. 平成18年度の実習コーディネーターについて 3. 研究圃場の生産物の販売について 4. 収穫祭のポスター作成について	1. 平成17年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について 2. 平成17年度後期実習について 3. 生産物の販売について 4. 津高牧場畜魂祭について 5. フィールド科学センター利用申込状況について 6. 技術部会議等について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
17.12. 7	1. 平成18年度作付け計画について 2. 平成18年度センター実習について 3. 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について 4. センター以外の生産物の販売について	1. 生産物の販売について 2. 津高牧場畜魂祭について 3. 技術部会議等について 4. センター報告について
18. 1. 6	1. 平成18年度作付け計画（案）について 2. 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について 3. 技術部技術職員体験発表会について 4. センター販売所のホームページ作成について	1. 生産物の販売について 2. センター報告について 3. 技術部会議等について
18. 2. 1	1. 平成18年度センター併任教員について 2. 平成18年度センター専任教員のコースへの併任について 3. 平成18年度センター実習（案）について 4. 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について 5. センター販売所のホームページ作成について 6. 環境学教育に関する協力要請について 7. 全国大学附属農場協議会「食育プロジェクト課題化推進についての協力依頼」と「全国大学附属農場における農学・環境・農業教育の実態調査とネットワーク化への提言に関するアンケート協力依頼」について 8. センター選出委員について	1. センター報告について 2. 生産物の販売について 3. 技術部技術職員体験発表会について 4. 技術部会議等について
18. 3. 3	1. 平成16年度農場収入の還元額について 2. 平成18年度センター運営会議委員について 3. 岡山大学教育学部附属養護学校「職場体験学習」について 4. センター販売所のホームページ作成について 5. ガラス温室の使用について 6. 大学等開放推進事業について	1. 平成18年度センター実習実施要項について 2. 「全国大学附属農場における農学・環境・農業教育の実態調査とネットワーク化への提言に関するアンケート」について 3. 部門別・年度別2月末現在収入状況について 4. センター報告について 5. 技術部技術職員体験発表会について 6. 技術部会議等について 7. フィールド科学センター利用申込状況について

## 6. 施設開放状況

施設利用目的, 時期	施設利用者名	期 間	団 体 数 等	参加人数
いもほり (10月3日～11月1日)	保育園 幼稚園 小学校 中学校 親子クラブ その他	1 日	42団体 (3,750株) 10 (1,102株) 8 (1,355株) 2 ( 420株) 1 ( 8株) 14 ( 602株) 7 ( 263株)	2,975 672 888 340 1 839 235
体験学習 (5月12日)	牧石小学校	1 日	1	64
体験学習 (5月19日)	邑久小学校	1 日	1	119
体験学習 (5月26日)	津島小学校	1 日	1	15
体験学習 (8月7日)	少年自然の家	1 日	1	95
体験学習 (10月18日)	甲浦小学校	1 日	1	60
総合学習 (11月30日)	香和中学校	1 日	1	21
野外授業 (6月23日・6月30日)	岡山理科大学	2 日	1	30
見学 (4月21日～3月31日)	あゆみ保育園	13日	1	19～40 (延237)
見学 (5月28日)	岡山市立少年自然の家	1 日	1	50
見学 (7月1日)	中国四国指導農業士会	1 日	1	5
見学 (9月12日)	つしま幼稚園	1 日	1	90
研修 (7月25日)	JA兵庫六甲合鴨稲作研究会	1 日	1	10
研修 (10月29日)	アニマルヒーリング研修会	1 日	1	25
大学等開放等推進事業 (5月14日・7月9日・8月25日)	一般市民	3 日	16家族	47 幼稚園児等 5 小学生23 中学生 1 保護者18